

かゑらじと かねて思へハ 梓弓

なき数に入る 名をぞとどむる

四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第118号

令和2年10月13日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

## 黒岩淡哉作「小楠公像」、寄贈を受ける

### 四條畷高校、JR 四條畷駅に次いで四條畷に3体目

#### ● 枚方市在住、駒村氏より ●



四條畷楠正行の会にとって、大変うれしいお知らせをいただき、素晴らしい出会いと感激をいただきました。

この度、枚方市在住の駒村裕史様から、駒村家の家宝

として伝わる黒岩淡哉作・小楠公像の寄贈を受けました。

この小楠公像は、昭和11年(1936)ごろ、黒岩淡哉に制作が依頼され、翌年の2月、像の原型が完成したもので、楠正行が四條畷の戦いに出陣するに際し、吉野山如意輪寺の板戸に辞世の歌を矢じりで刻んだ、その筆跡を見つめる姿を写したものです。

この原型をもとに、飯盛山山頂に設置された銅像は、像高1丈2尺(約3メートル64センチ)、重量は600貫(約2250キログラム)でした。

なお、この銅像は、戦争が激化する中、昭和18年(1943)に台座を遺して回収されたため、現在、飯盛山山頂に建つ小楠公像は、昭和47年(1972)に、大東市の田伐兼松氏によって再建されたものです。

また、その原型となった小楠公像は、昭和42年(1967)、黒岩淡哉の遺族が所有していたものを、四條畷高校同窓

会に寄贈され、現在、同校に保管されています。

そして、昭和48年(1983)には、JR 四條畷駅にも寄贈され、現在、同駅改札口のコンビニ横のスペースに展示されています。

黒岩淡哉は、明治5年(1872)、東京芝に生まれ、明治27年(1894)東京美術学校を卒業、同校で教鞭をとったのち、大阪府立職工学校教諭として赴任しました。昭和6年(1931)大阪府立西野田職工学校を退職後、守口市にアトリエを構えました。

駒村氏の先代は、かつて黒岩淡哉のアトリエのすぐ近くに居を構え、親交があったことから、この小楠公像一体を黒岩淡哉から譲り受け、二代続けて駒村家の家宝として保存・管理されてきたものです。総高さ約88cm、幅40cm、奥行き51cm。

寄贈を受けた小楠公像は、来る11月16日から開催する特別展「しじょうなわてと楠正行」にサプライズ・特別展示の予定です。

また、楠正成が使ったと伝わる呼び鈴も

ご寄贈いただきました。最上部には亀の上に蛇があしらわれており、「建武二年 楠正成□□具 正月二八日」の文字が読み取れます。

(写真左上から ご自宅玄関前で小楠公像と駒村裕史氏・寄贈いただいた小楠公像・正成使用と伝わる呼び鈴)



(文責『四條畷楠正行の会』代表 扇谷昭)